

1. はじめに

2002 年 5 月、備前市文化財保護審議会委員 花岡志郎氏から、井田町町内会の足立氏に一通の手紙が届きました。

その内容は『備前市穂浪に井田(いた)地区がある。この由来は池田光政公が造成した画期的地割土地制度で閑谷学校田として「井田(せいでん)」と命名され、江戸幕末まで運営された村だった。同一名である当「井田(せいでん)町」が何らかの関係があるのでは？と興味をもったので、「井田町」について知りたい。』とのことでした。

当町内会としては残念ながら記録に残された資料は無く、この機会に長老の方々のご記憶あるいは文献などをよりどころに調査し、本誌“この地域の変遷 井田町のルーツ”および別冊“井田町町名の由来”を整理しました。

ご一読下さり、ご意見頂ければ幸いです。

2. 井田町に至る経緯

1) 江戸時代～明治時代

下伊福村は安土桃山時代における宇喜多氏、小早川氏支配下の備前国御野郡領、江戸時代（慶長 8 年：1603 年）から岡山藩御津郡領（池田利隆・光政）の統治下を経て明治 8 年までの村名であった。

村高は「領分郷村高辻帳」「備陽記」に 1,757 石余と記録されている。

村の北を西国往来の旧山陽道（現国神社前道路）が通り、休み茶屋が多く、三門の刻み煙草・草餅が名物であった。神社は伊福八幡宮、国神社、天野神社があった。

明治 4 年の廃藩置県で岡山県に所属し、下伊福村（現富町、寿町、奉還町、昭和町なども含む）とその枝村として三門村、西崎村、国守村に分離分割された。

明治 8 年には下伊福村および下伊福村の枝村を統合して巖井村に改称した。

明治 22 年の町村制実施に際し、巖井村は島田村と合併して石井村となった。

なお 明治 37 年に中国鉄道（後の国鉄）吉備線が岡山―湛井（現総社市）間を開業した。

2) 大正時代～昭和時代

大正 10 年に石井村は岡山市に編入され、岡山市巖井と岡山市島田に分割された。岡山市は大正 12 年に「都市計画法」に基づき、道路網整備の一環として三門―原尾島道（現在の国道 180 号）を昭和 6 年～12 年の工期を要し建設した。

その道路建設の「竣工記念」の石碑に“巖井第一区劃（かく⇒以降 画）整理として、道路建設と併行して広範な南側周辺域を区画整理した。

区画整理後この地区を巖井井田町一、二、三丁目と改称す”と刻み込んでいる。

この稲田農村の地割区画整理は当時として画期的な事業だったのでしょう。

昭和 20 年 6 月岡山大空襲で、市内中心街は全焼、巖井地区は約 50%が被災した。

終戦後、新制中学校の発足に伴い、昭和 22 年 4 月石井中学校が開校した。

また 昭和 28 年 4 月に三門小学校が誕生した。

昭和 40 年から新住居表示が導入され、巖井から下伊福 1、2 丁目、奉還町 1～4 丁目、富町 1、2 丁目、寿町、昭和町の 5 町が分離独立し、昭和 49 年には下伊福上町をはじめ、巖井の残された 14 町が独立し、新住居表示から巖井名は無くなった。但し 地番名の巖井井田町一・二・三丁目は現存しています。(5/6 頁ブルーマップ 参照)

3) 井田町町内会になった経緯

岡山市市民局の町内会届出名簿には昭和 30 年 1 月 1 日巖井下伊福および巖井井田町二丁目、三丁目で「下伊福町内会 (300 世帯) を結成した」とある。

なお 岡山市市民局の町内会登録簿には昭和 30 年以前に関する資料は保管されていなかった。

「下伊福町内会」は昭和 41 年に 4 分割された。即ち「下伊福元町町内会」(新住居表示後「下伊福本町町内会」に変更)、「下伊福東町町内会」、「下伊福西町町内会」、「井田町町内会」の 4 町内会となった。

井田町は下伊福他 3 町内会の北に位置するが、前述の旧巖井井田町二丁目と三丁目石井中学校以東の範囲をまとめ、“巖井”を外し「井田町町内会」としたようだ。

3. おわりに

本誌および別冊(「井田町」町名の由来)は「文献書籍」、「竣工記念碑」、「長老の方々のお話」などを合成したものです。

現時点で知りえる限りを尽くしましたが、今後 新事実が入手された場合はその時点で修正を加えます。

また 次ページに 1) 本誌に基づいた変遷を 表・モデル整理 3/6 4/6 頁
2) ブルーマップ 巖井井田町一・二・三丁目(地番)配置 5/6 頁
3) 調査した関連資料リストと聞き込み相談者掲載 6/6 頁
を 添付しました。

(一部修正) 2010 年 3 月 15 日

2003 年 3 月 31 日

文責 立川 佳久

※ 追記

三門学区「井田町町内会」名は前述のように岡山市市役所の登録名簿(管理: 現職制は安全・安心ネットワーク推進室)に掲載されてあります。

その名簿は昭和 41 年 4 月から平成 21 年 6 月まで、49 回(冊)発行し保管されていますが、全て三門学区「井田町町内会」となっています。

一方、当町内会の『町内会会則』は「岡山市岩井下伊福井田町町内会」が昭和 44 年 5 月～昭和 48 年 5 月間に 3 回発行、「岡山市下伊福井田町町内会」が昭和 50 年 5 月～平成 7 年 6 月間に 6 発行、計 9 回発行していますが、いずれも第一章 総則に“本会は下伊福井田町町内会と称する”と明記しています。

今後、当町内会としては岡山市市役所、三門学区連合町内会など公式使用されている町名「井田町町内会」をしばらくの期間 使用して行きます。

1.

1. この地域の歴史（下伊福村から、分割 多くの町へ）

1-1. 江戸時代末期～現在までの村・町変遷

江戸	明治	大正	昭和	平成
(明治4年7月14日：廃藩置県当時)				
	御津郡下伊福村			
	(明治8年12月27日)			
	御津郡巖井村			
	(明治22年6月1日)			
	御津郡石井村（大字巖井）			
	(大正10年3月1日：岡山市に編入)			
	岡山市巖井			
	(昭和40年9月新住居表示)			
	巖井から下伊福1、2丁目他4町が独立			
	(昭和49年新住居表示)			
	巖井の残余から下伊福上町他14町が分割独立			

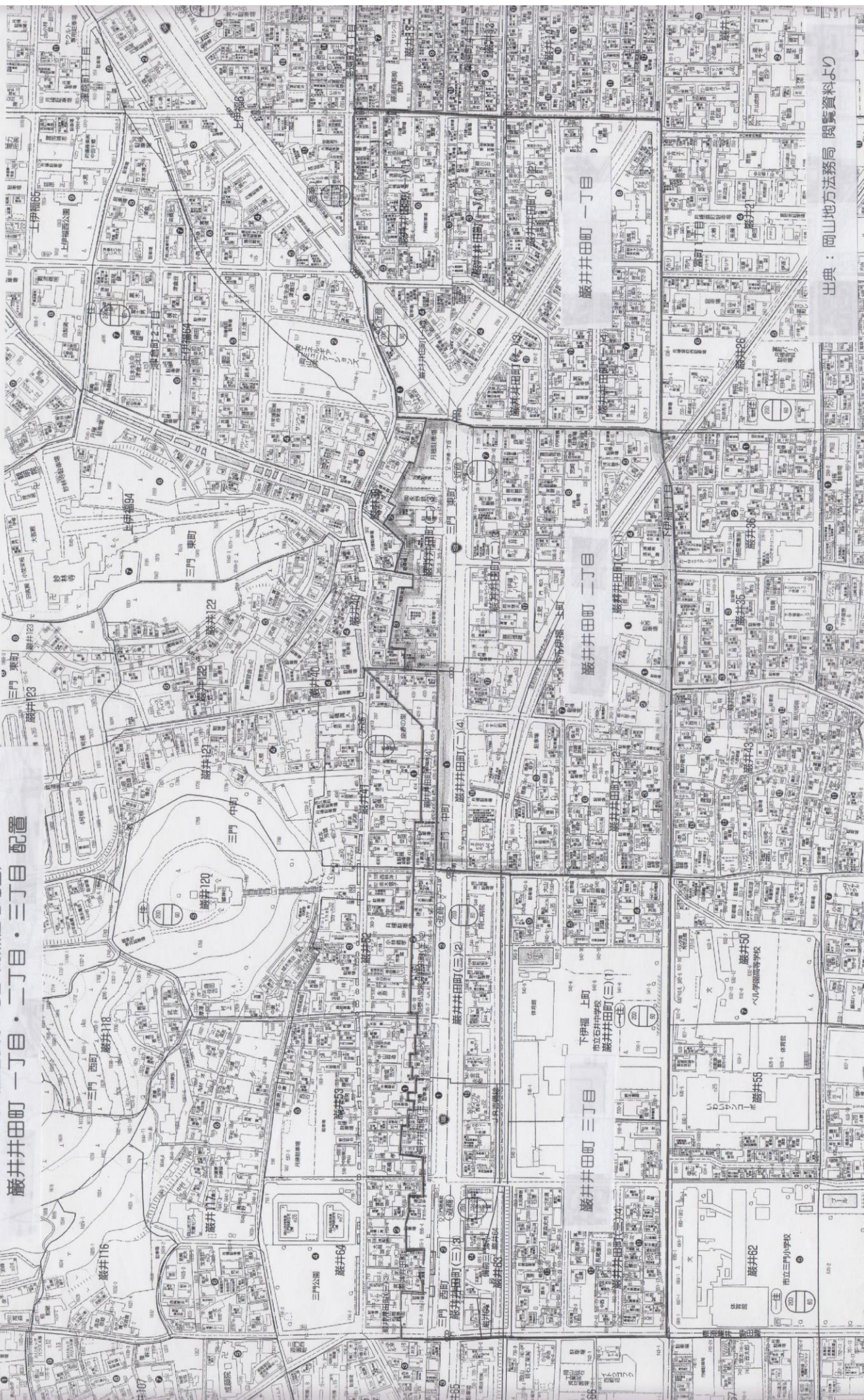
1-2. 村・町変遷モデル（1-1. 項の図解説明）

～明治3年	明治4年	明治8年	明治22年	大正10年	昭和40年	昭和49年
(御津郡) 下伊福村	(御津郡) 下伊福村	(御津郡) 巖井村	(御津郡) 石井村	(岡山市) 巖井	(岡山市) 巖井	下伊福上町
						下伊福本町
						下伊福西町
						京山1～2丁目
						岩井1～2丁目
						関西町
						岩井宮裏
						三門東町
						三門中町
						三門西町
						葵町
						西崎本町
						西崎1～2丁目
						高柳西町
	うち三門				下伊福1～2丁目	下伊福1～2丁目
	うち西崎				奉還町1～4丁目	奉還町1～4丁目
	うち国守				富町1～2丁目	富町1～2丁目
					寿町	寿町
			(旧巖井村)		昭和町	昭和町
			(旧島田村)			

2.地域の出来事

江戸	明治	大正	昭和	平成
2-1. 文献などによる地域の出来事				
(明治 37 年 11 月 15 日)				
中国鉄道（後国鉄へ）吉備線開業				
(昭和 6 年～12 年 9 月 4 日)				
「都市計画」 巖井第一区劃(か)く)整理工事				
即ち三門～原尾島道および南側農地区画整理				
(昭和 12 年 11 月 13 日)				
同上 整理後、町名を「巖井井田町一、二、三丁目」と改称」：“竣工記念碑”に刻印有り				
(昭和 20 年 6 月 29 日)				
岡山大空襲				
(昭和 22 年 4 月)				
石井中学校開校				
(昭和 28 年 4 月)				
三門小学校開校				
2-2. 町内会の歴史：（岡山市市民局資料より）				
(昭和 30 年 1 月 1 日)				
巖井下伊福及び巖井井田町二、三丁目				
で「下伊福町町内会」を結成				
(昭和 41 年 4 月)				
下伊福町町内会が 4 分割され、				
その 1/4 が「井田町町内会」名で誕生				
2-3. 歴代の町内会長（敬称略）				
～ 岡山市市役所登録資料より（但し昭和 30 年以前の記録は保管されていない）～				
立川 可一 昭和 30 年 1 月 1 日～ 41 年 4 月（下伊福町町内会） 11 年				
これより、井田町町内会の歴史				
<初代>立川 可一 昭和 41 年 4 月 ～ 54 年 4 月（井田町町内会） 13 年				
<二代>難波 春治 昭和 54 年 4 月 ～ 55 年 4 月（ ” ） 1 年				
<三代>立川 博 昭和 55 年 4 月 ～ 59 年 4 月（ ” ） 4 年				
<四代>船橋 寛典 昭和 59 年 4 月 ～平成 1 年 4 月（ ” ） 5 年				
<五代>大河原公男 平成 1 年 4 月 ～ 7 年 4 月（ ” ） 6 年				
<六代>関野 司 平成 7 年 4 月 ～ 19 年 4 月（ ” ） 12 年				
<七代>立川 佳久 平成 19 年 4 月 ～ （ ” ）				
4/6				

ブルーマップ(住居表示 地番 対照住宅地図)
 瀬井井田町 一丁目・二丁目・三丁目 配置



出典：岡山地方公務局 閲覧資料より

「井田町のルーツ」および「井田町名の由来」に関する 関連資料と聞き込み相談者

1. 調査（一部引用）した関連資料など

- 1) 下伊福（井田町）周辺 1/50,000 地図・・・
発刊年次：明治 28 年、43 年、大正 14 年、昭和 24 年、34 年、48 年
- 2) 三門一原尾島道（現 R-180）「竣工記念碑の掲載内容と当時の状況類推」
- 3) 岡山市役所市民局（市民総務課）に於ける「井田町」に関する FAX 資料
- 4) 「下伊福村の歴史フロー図」：（岡山県大百科事典）
- 5) 「明治前期全国村名小字調査資料（下伊福村）」：（内務省地理局）
- 6) 「近世および近代における下伊福」「江戸期岡山地図」：（日本地名大辞典＜岡山県＞）
- 7) 「岡山市の地名“下伊福村”」：（岡山市編集発行）
- 8) 「下伊福 1～2 丁目」：（岡山地名辞典）
- 9) 近代「巖井」：（日本地名大辞典）、（岡山地名辞典）
- 10) 町村合併「石井村」：（岡山市百年史）
- 11) 大正 12 年“都市計画法”適用道路網整備；「三門～原尾島道」：（岡山県の地理）
- 12) 「石井中学の誕生」：（岡山市百年史 下巻）
- 13) 「御野郡下伊福村の仕様」と「地図」：（立川可一さまより受領）
- 14) 「三門とその周辺の歴史めぐり」：（公民館歴史探訪資料）
- 15) 「吉備線開通」：（汽笛一声）および（J R 岡山支社広報室）
- 16) ブルーマップ（住居表示 地番 対照住宅地図）：（岡山地方法務局 閲覧資料）
- 17) 昭和 22 年米国軍撮影 航空写真：（国神社提供）
- 18) 井田（せいでん）一閑谷学校田一：（備前市歴史民俗資料館）
- 19) “井田町の由来の問い合わせ”と“返事”：（備前市穂浪の花岡様の手紙、返事）

2. 聞き込み相談者（敬称略）

- 1) 立川 可一（99 歳）
- 2) 難波 文江（89 歳）
- 3) 江国 孝（77 歳 三門西町 1-18）